

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 島根県松江市殿町 1 番地
管理機関名 島根県教育委員会
代表者名 教育長 野津 建二

令和 4 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 3 1 日

2 指定校名・類型

学校名 島根県立情報科学高等学校
学校長名 渡邊 勝義
類型 プロフェッショナル型

3 研究開発名

「地域との協働を通じたデジタルイノベーション創出人材の育成」

4 研究開発の概要

島根県安来市は鉄鋼産業で栄えてきた製造業の町であるが、製造業に依存する産業の脆弱性も近年散見された。これに加えて、農業後継者の不足や少子高齢化など多くの課題があり、さらに長引くコロナ禍によって、市は大きな変化を求められている。

このような地域の諸問題に向き合い、さらに急激な時代の変化に IT スキルを活かして解決できる人材のニーズは高い。このことから地域を想い、協働性・主体性・創造性を備えた人材の育成を行い、産業の活性化に寄与したいと考え、次に示す研究実践を行う。

(1) デジタルイノベーション創出人材に必要な資質・能力を育成する教育実践

ア 協働性を育成するための教育実践

- 遊ぼう学ぼう講座（学校開放講座）と情報 IT フェアの開催
- 小中学校教員向け講座（プログラミング研修・ICT 研修）の開催
- 市内小中学校出張講座・ウェルカム講座・安来二中校区交流会の実施

イ 主体性を育成するための教育実践

- 地域探究基礎における課題解決型学習（地域の大人との交流）
- 地域探究応用におけるゼミ形式での探究学習
- 安来市オープンデータを活用した授業研究
- ICT サロン（本校教員対象 ICT 研修）の実施

ウ 創造性を育成するための教育実践

- 課題研究「観光ビジネス」講座の実施
- 情報 IT フェアの開催
- 地域の大人を対象としたリカレント IT 講座の実施

(2) 行政、地域企業等と連携した地域人材育成・環流システムの構築

本校を中心とした小中高12年間を見通したプログラミング教育及び社会人に対するリカレント教育等、一貫した地域人材育成システム構築

(3) 専門部会を核としたコンソーシアムの構築

効果的な研究開発のために三つの専門部会を設置及び支援員の配置による、専門的な知見を効果的に反映できる組織の構築

ア IT Kids 安来部会 イ カリキュラム開発部会 ウ IT City 安来部会

(4) デジタルイノベーション創出人材育成のためのカリキュラム開発

デジタルテクノロジーを活用し、地域課題を解決していくことのできる資質・能力を身に付けるための系統的で教科横断的なカリキュラム開発

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

学校設定教科・科目を開設している

イ 教育課程の特例の活用している

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
田中 武夫	安来市 市長	関係行政機関市長
野田 哲夫	島根大学法文学部 教授	学識経験者・オープンデータ活用
山田 泰寛	島根大学総合理工学部 助教	学識経験者
吉竹 康之	ソフトバンク株式会社	人事総務統括・CSR 統括部
中村 和磨	島根県教育委員会	地域教育推進室長
田原 賢司	県商工労働部雇用政策課長	県行政担当部署

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

氏名	機関名
淀谷 正臣	安来市政策推進部やすぎ暮らし推進課長
大谷 宏	安来市政策推進部観光振興課長
石井美佐子	安来市政策推進部地域振興課長
山根 純	安来市総務部自治体DX推進室長
秦 誠司	安来市教育委員会 教育長
板持 真澄	安来商工会議所 専務理事
石原 敬治	安来市商工会 事務局長
青山 巧	安来市内小学校長会 安来市立南小学校長
秦 美沙江	安来市内中学校長会 安来市立広瀬中学校長
板垣 学	島根県情報科学高等学校 PTA 会長
亀瀧 真人	情報科学高校卒業生会 凌雲会会長
石倉 淳一	カリキュラム開発等専門家 ミニマルエンジニアリング 代表
渡邊 勝義	島根県立情報科学高等学校 校長

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	石倉 淳一	ミニマルエンジニアリング 代表	非常勤
地域協働学習実施支援員	宮廻 繁 (IT Kids)	安来市教育員会・指導主事	非常勤
	山根久美子 (IT City)	安来市役所・定住政策課	非常勤

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
グランドデザインの実現（特に高校魅力化コンソーシアム）	研修①							研修②			研修③		
	教育庁各課横断の伴走												
学校運営協議会			研修										
探究学習推進	担当者設定	研修①		ミニ研修①				ミニ研修②		ミニ研修③	フシエまねスタタ・探究③		
	探究指導主事の伴走												
魅力化コーディネーター		研修											
	グランドデザイン研修・探究担当者研修への参加呼びかけ												
								コーディネーター訪問					
高校魅力化評価システムによる調査・検証			調査	バフツィード	研修								
	各校の検証												
人員配置								予算要求					配置決定

(2) 実績の説明

① 運営指導委員会の開催・授業や発表会への参加等

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会の実施			1回								1回	
コンソーシアム役員会への参加			1回						1回			1回
成果発表会への参加・助言							1回			1回		
事業の広報								1回			1回	

②体制支援・活動支援

グランドデザインの 実現（特に高校魅力 化コンソーシアムへ の支援）	島根県では令和3年度末に全県立高校がグランドデザインにもとづく 高校魅力化コンソーシアムを構築。各校のグランドデザインの着実な実 現を図るため、グランドデザインPDCA研修を実施。高校の管理職（校 長・教頭）または主幹教諭、市町村担当者、コンソーシアム関係者等か ら各1名ずつの3名がコアチームを形成し参加。
地域との協働体制 （特に学校運営協議 会への支援）	学校運営協議会の構築や運営に係る研修を実施。
探究学習推進	令和2年度から教育庁に探究学習専任指導主事を配置。あわせて探究学 習を推進する教員を各校1名設定し研修を実施（必修研修、希望者によ るミニ研修）。探究学習に係る経費を支援し、高校生・教員が探究学習 の成果を発表する場（「しまね探究フェスタ」）を開催。その他、年間 を通じた助言等。
魅力化コーディネー ター研修	市町村等で配置されている魅力化コーディネーターの質の向上とネッ トワーク作りを目指し研修を実施。
高校魅力化評価シス テムの構築と活用研 修	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するため、生徒と地 域に対し魅力化アンケートを実施。その活用を図るため、アンケート結 果の読み解きや学校の事例検討を含めた研修を実施。
人員配置	新しい高校づくりに向かう体制構築として、県単独加配の主幹教諭をR 4年度末までに普通科高校へ21名配置。さらに、R3～4年度は高大 連携を推進する職員を3名配置。R5年度はさらに1名を追加配置予 定。

③事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・「教育魅力化人づくり推進事業」の継続や教育庁の伴走体制の強化による学校・コンソーシアム支援の継続
- ・各校が作成したグランドデザイン実現に向けた取組のさらなる推進
（コンソーシアム運営や学校運営協議会に関する研修、「高校魅力化評価システム」等を活用したPDCAサイクルの構築等）
- ・探究学習推進担当者研修の継続・充実
- ・高校魅力化コーディネーターの確保・育成
- ・クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得についての研究の継続、知見の共有

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

各部会の研究項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
IT Kids 安来部会												
情報科学高校で 遊ぼう学ぼう講座	月に1回 講座を開催 会場は本校や公民館等 講師は本校教員や外部講師の登用も											
小中学校教員向け 講座	6月：小学校プログラミング教育研修⇒ 実施なし 個別の対応（出張講座・ウェルカム型）に変更											
出張講座& ウェルカム講座 安来二中校区交流会	小学校・中学校からの要望を受け、出張講座を実施。 児童が本校に来校するウェルカム講座も、随時開催。交流会は7月開催。											
カリキュラム開発部会												
地域探究基礎での 課題解決型学習	地域課題解決に向けた プロジェクト学習開始			人財バンクを活用し、地域の大人 との交流、地域を知る					振り返り まとめ			
地域探究応用での ゼミ形式学習	各自で探究 テーマを設定			校内教員・地域との連携 を取りながら探究学習					振り返りまとめ 論文・プレゼン発表			

ICTサロン(本校教員対象研修)実施	1年生はChromebook、2年生はiPadとなる。どちらもGoogleのツールを活用するため、2回研修を開催。教員が業務のICT化を推進する。				
課題研究成果発表会 2023年2月13日	地域探究基礎・応用 課題研究のテーマ設定・活動	研究実践・まとめ 発表準備	発表会		
IT City 安来部会					
情報 IT フェアの開催 2022年12月3・4日	企画会議 全生徒業務決定	準備集会・連携先との 打ち合わせ	イベント実施・データ分析し検証 振り返り・報告		
安来市オープン データ活用研究	2年情報システム科とマルチメディア科にて オープンデータ活用授業・公開授業の実施				
課題研究 「観光ビジネス」 「調査研究班」	テーマ 設定	サービス・商品・イ ベントの企画	サービスと 商品開発	サービス運用 商品販売開始	活動の検証・報告書 作成・成果発表
地域の大人対象 リカレント IT 講座	体制・企画 検討	学期に1回程度のリカレント IT 講座 …実施できず。		次年度 探究応用・ 課題研究へ	
教 員	研修(現状分析)→ 教科主任会	グランドデザインに基づき授業・分掌の事業 ・部活動や委員会活動の改善		各種活動の検 証	

(2) 実績の説明

【ITKids 安来部会】

①情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座における、本校生徒の主体性向上について

令和5年度、3年生課題研究に「遊ぼう学ぼう講座班」が新規開講した。この班の生徒が、講座の企画・運営を一手に引き受け講座の開講がされた。メイン講師を生徒が務めるようになり、講座のチラシ作成やスタッフ生徒の募集も生徒が自ら行った。

②地元小学校・中学校からのプログラミング指導や交流の依頼多数

遊ぼう学ぼう講座などが周知され、本校への依頼が相次いだ。

- ・安来二中校区6年生の交流会…昨年に続き今年度も要望有。ドローンや校舎探検等。

- ・宇賀荘児童クラブウェルカム講座…児童クラブの夏休み中のイベントとして開催。他5件

【ITCity 安来部会】

①3年ぶりに対面開催した、「第7回情報 IT フェア」

今年度ようやく3年ぶりの対面開催となった。消毒、換気、入場者数の制限、事前申し込みなど、以前対面開催した時は経験のない対策が必要となった。来場者数は人数制限し、約920名(第4回の約半数)。お客様の満足度は90.9%だった。全校生徒の感じた達成感(大きな達成感69.9%)、学んだことが活かした(かなり活かした31.1%)という問いに対し、どちらも過去最高の評価となった。

【カリキュラム開発部会】

①地域探究応用初年度、好発進

今年度は、1年次の「地域探究基礎」、2年次の「地域探究応用」、3年次の「課題研究」の3つの探究学習が初めて繋がった。特に初めての開講となった、今年度の地域探究応用は、商業科教員のみならず共通教科の教員も担当者となって、生徒4～5人のゼミ形式で開講。産学官連携多数。

②成果の普及方法について

令和5年2月13日(月)安来総合文化ホール「アルテピア」にて、成果発表会を開催しプレゼンテーションによる発表を行った。

【コンソーシアムによる支援体制】

①生徒の活動の参観と評価

遊ぼう学ぼう講座(毎月開催、合計7回)や情報ITフェア(12月)、課題研究成果発表会(2月)など、生徒のスキル発揮の機会を参観していただくことができた。

②交流や情報共有の提案

中学校の発表会参観に招待してもらったり、本校の紹介動画の共有や、成果発表会のYouTubeを中学校の授業の中で視聴していただくなど、直接の交流ではない、新たな情報共有があった。

③コンソーシアムマネジャー、コーディネーターの委嘱

令和3年度10月から安来市が雇用した高校魅力化コーディネーターが活躍され、地域との協働は

より一層活発になった。令和4年度の11月からは二人目の高校魅力化コーディネーターが採用され、二人体制で市内の2つの県立高校の魅力化を推進してもらっている。

【ICT活用による組織マネジメント】

- ①生徒朝礼二人体制、Google チャットを活用した生徒出欠・健康観察情報の共有
- ②生徒用・教員用ポータルサイトの構築によって、朝礼伝達、時間割、スケジュールの共有開始

【ランドデザインPDCA研修】

目線合わせのために、ランドデザインPDCA研修を実施し、進捗と成果を全教職員で確認した。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

表1 魅力化評価アンケート調査結果の推移

現3年生が1年生の頃から3年生の12月までの魅力化評価アンケート調査の結果の推移は表1のとおり。図1は、魅力化評価アンケートの質問項目のうち、本校が特に向上させようとした「協働性」、「主体性」、「創造性」に当てはまる多数の質問のうち、5問をピックアップし推移を追った。

三つの指標の中でも、常に高かったのは主体性である。自己肯定感があってこそ、自分事として積極的に行動できる。その次に向上して欲しいのが、協働性である。自分に自信を持てるようになったら、他者に自分の意見を伝えてみる。他者にアドバイスを求めてみる。同級生のみならず先輩や後輩、地域の大人など、多様な他者とコミュニケーションを取りながら、協働し一つのことを成し遂げる体験を経て、生徒はより一層自信をもてるようになったと感じている。

協働して取り組み、次々と出現する課題に対処していくうち、創造性が高まる。このような成長の過程を現3年生は見せてくれた。

この3年間、本事業に取り組む中で、本校の先生方の前向きなチャレンジ精神と素直で活発な生徒たちの頑張り、魅力化コーディネーターの支え、地域の皆さんの期待と励ましを受けて、本校は大きく成長できた。そのことが図1に表れている。

<添付資料>目標設定シート

★魅力化評価アンケート 現3年生の変化		1年次		2年次		3年次	
分野	質問	R2年9月	R3年6月	R4年2月	R4年7月	R4年12月	
4	協働性	63.1	52.9	80.5	70.4	89.1	
5	協働性	70.2	63.5	76.6	67.9	80.4	
6	協働性	67.9	63.5	80.5	70.4	80.4	
12	協働性	60.7	38.8	67.5	77.8	84.8	
14	協働性	44.0	43.5	46.8	40.7	58.7	
	協働性の平均	61.2	52.4	70.4	65.4	78.7	
7	主体性	60.7	57.6	67.5	71.6	87.0	
8	主体性	60.7	42.4	75.3	58.0	82.6	
9	主体性	89.3	67.1	72.7	81.5	84.8	
10	主体性	41.7	42.4	59.7	44.4	69.6	
13	主体性	94.0	87.1	89.6	77.8	89.1	
	主体性の平均	69.3	59.3	73.0	66.7	82.6	
1	創造性	64.3	47.1	61.0	61.7	87.0	
2	創造性	21.4	23.5	39.0	42.0	82.6	
3	創造性	63.1	52.9	72.7	64.2	84.8	
11	創造性	59.5	49.4	72.4	55.6	58.7	
15	創造性	78.6	64.7	77.9	70.4	91.3	
	創造性の平均	57.4	47.5	64.6	58.8	80.9	

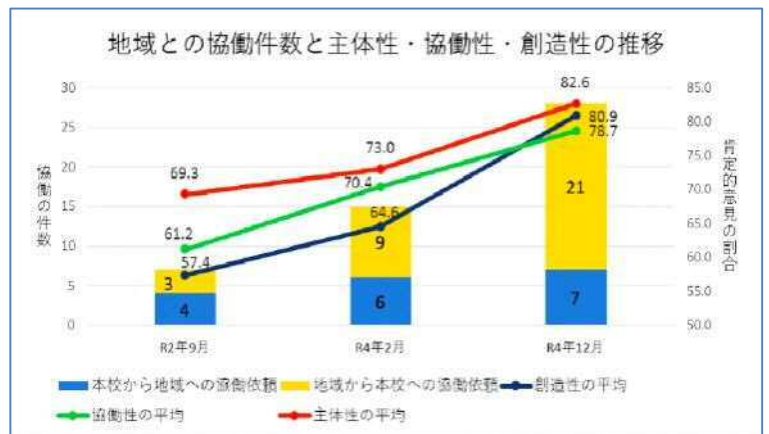


図1

1.2 次年度以降の課題及び改善点

- ・魅力化推進部会の独立化。(R4年度は商業部と合同部会) 魅力化コーディネータとの連携強化。
- ・各分掌におけるICT担当教員の設置
教職員のICT活用スキルの維持・向上に努めるサポート体制の構築
- ・進路デザイン 生徒の興味関心を進路に繋げられるよう、キャリアパスポートを活用しながら、生徒が個人個人のポートフォリオに落とし込む。

【担当者】

担当課	教育指導課	TEL	0852-22-6057
氏名	糸賀 澄人	FAX	0852-22-6026
職名	指導主事	e-mail	shidou@pref.shimane.lg.jp

ふりがな	しまねけんりつじょうほうかがくこうとうがっこう	指定期間	令和2～4
学校名	島根県立情報科学高等学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値(令和3年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「勉強したものを実際に応用してみる」に対する肯定的な回答の割合						
a	本事業対象生徒：		60.0	69.9	63.1	65.0
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：2020年度「高校魅力化評価システム」によるアンケートのうち、「創造性」に関わる項目における成果目標						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ」に対する肯定的な回答の割合						
a	本事業対象生徒：		28.5	50.6	54.3	45.0
	本事業対象生徒以外：		34.2			
目標設定の考え方：2020年度「高校魅力化評価システム」によるアンケートのうち、「創造性」に関わる項目における成果目標						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい」に対する肯定的な回答の割合						
a	本事業対象生徒：		58.5	75.9	78.1	65.0
	本事業対象生徒以外：		56.9			
目標設定の考え方：2020年度「高校魅力化評価システム」によるアンケートのうち、「創造性」に関わる項目における成果目標						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた」に対する肯定的な回答の割合						
a	本事業対象生徒：		63.1	78.5	72.8	75.0
	本事業対象生徒以外：		66.9			
目標設定の考え方：2020年度「高校魅力化評価システム」によるアンケートのうち、「協働性」に関わる項目における成果目標						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」に対する肯定的な回答の割合						
a	本事業対象生徒：		55.4	78.1	70.3	70.0
	本事業対象生徒以外：		59.4			
目標設定の考え方：2020年度「高校魅力化評価システム」によるアンケートのうち、「協働性」に関わる項目における成果目標						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「共同作業だと、自分の力が発揮できる」に対する肯定的な回答の割合						
a	本事業対象生徒：		61.5	78.1	70.7	75.0
	本事業対象生徒以外：		65.1			
目標設定の考え方：2020年度「高校魅力化評価システム」によるアンケートのうち、「協働性」に関わる項目における成果目標						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる」に対する肯定的な回答の割合						
a	本事業対象生徒：		56.5	71.6	82.4	71.0
	本事業対象生徒以外：		63.3			
目標設定の考え方：2020年度「高校魅力化評価システム」によるアンケートのうち、「主体性」に関わる項目における成果目標						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「目標を設定し、確実に行動することができる」に対する肯定的な回答の割合						
a	本事業対象生徒：		58.5	75.5	80.0	68.0
	本事業対象生徒以外：		59.4			
目標設定の考え方：2020年度「高校魅力化評価システム」によるアンケートのうち、「主体性」に関わる項目における成果目標						

(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)					単位： %
「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」に対する肯定的な回答の割合					
a	本事業対象生徒：	78.5	75.9	80.2	78.0
	本事業対象生徒以外：	72.3			
目標設定の考え方：2020年度「高校魅力化評価システム」によるアンケートのうち、「主体性」に関わる項目における成果目標					
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)					単位： %
島根県内（米子市も含む）における各学科に関係する職種への就職率					
b	本事業対象生徒：	18.0	20.0	14.0	26.0
	本事業対象生徒以外：				
目標設定の考え方：令和2年度本校就職者のうち、「各学科に関係する職種への就職率」に関わる成果目標					
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)					単位： %
島根県内（米子市も含む）における各学科に関係する学部等への進学率					
b	本事業対象生徒：	14.0	30.0	32.0	30.0
	本事業対象生徒以外：				
目標設定の考え方：令和2年度本校進学者のうち、「各学科に関係する学部等への進学率」に関わる成果目標					
(その他本構想における取組の達成目標)					単位： 人
全商情報処理検定1級および情報系国家試験の合格者数（のべ人数）					
c	本事業対象生徒：	39	57	43	30
	本事業対象生徒以外：				
目標設定の考え方：全商および情報系国家試験など上級資格取得における成果目標					
(その他本構想における取組の達成目標)					単位： %
キャリア基礎(R2~R3)や地域探究応用(R4)で課題発見・解決能力、ICT機器を活用したプレゼン能力が高まったと感じた生徒の割合					
c	本事業対象生徒：	-	78.1		-
	本事業対象生徒以外：	-			
目標設定の考え方：アンケートのうち、「課題発見・解決能力、プレゼン能力」に関わる成果目標					
(その他本構想における取組の達成目標)					単位： %
キャリア基礎(R2~R3)や地域探究応用(R4)で課題発見・解決能力、プレゼン能力が優れていると感じた教員・地域の大人の割合					
c	本事業対象生徒：	-	80.0		-
	本事業対象生徒以外：	-			
目標設定の考え方：アンケートのうち、「課題発見・解決能力、プレゼン能力」に関わる成果目標					
(その他本構想における取組の達成目標)					単位： %
「オープンデータ活用事業」で情報活用能力が高まったと感じる生徒の割合					
c	本事業対象生徒：	96.8	66.6	74.0	80.0
	本事業対象生徒以外：				
目標設定の考え方：オープンデータ活用事業事後アンケートのうち、「情報活用能力」に関わる成果目標					
(その他本構想における取組の達成目標)					単位： 件
デジタルテクノロジーを活用した、市や企業に対する提案の採択件数					
c	本事業対象生徒：	3	9	10	4
	本事業対象生徒以外：				
目標設定の考え方：デジタルテクノロジーを活用した「創造性」に関わる成果目標					
(その他本構想における取組の達成目標)					単位： 人
遊ぼう学ぼう講座において、指導スタッフとして講座運営に協力した生徒の延べ人数					
c	本事業対象生徒：	58	88	117	65
	本事業対象生徒以外：				
目標設定の考え方：本事業の実施により、「主体性」が高まったかを検証する					
(その他本構想における取組の達成目標)					単位： %
第5回情報ITフェアにおいて、主体的かつ協働的に取り組めたと感じた生徒の割合					
c	本事業対象生徒：	83.6	93.6	94.8	95.0
	本事業対象生徒以外：				
目標設定の考え方：ITフェア事後アンケートのうち、「主体性」「協働性」に関わる成果目標					

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値(令和3年度)
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) デジタルイノベーション人材の育成に関わる活動のうち、関係機関等と生徒との検討会などの開催数					単位： 回
		3	7	10	36	7
目標設定の考え方：地域関係機関との協働学習頻度について、本事業による効果を検証する						
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) デジタルイノベーション人材の育成に関わる活動のうち、成果発表会における発表回数					単位： 回
		2	3	3	2	4
目標設定の考え方：各発表会への参加による普及効果を検証する						
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) デジタルイノベーション人材の育成に関わる活動のうち、外部への授業公開回数					単位： 回
		2	4	1	2	5
目標設定の考え方：授業公開の回数により普及効果を検証する						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 遊ぼう学ぼう講座への小中学生の参加人数					単位： 人
		130	163	108	109	155
目標設定の考え方：小中学生のプログラミング教室への参加人数により、普及効果を検証する						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 生徒による地域の中学生に対するプログラミング出前講座					単位： 回
		3	3	2	2	3
目標設定の考え方：中学生に対するプログラミング出前講座の開催回数により、普及効果を検証する						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 各種競技大会・コンテスト参加による入賞回数					単位： 回
		3	0	5	10	4
目標設定の考え方：各種競技大会・コンテスト参加による入賞回数により、普及効果を検証する						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) PBL(課題解決型学習)において、デジタルテクノロジーを活用した課題解決提案数					単位： 件
		2	3	-	6	6
目標設定の考え方：デジタルテクノロジーを活用した課題解決提案実績により、本事業の効果を検証する						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 情報ITフェアにおける来場者数(オンライン開催時はアクセス件数)					単位： 人
		1,513	2,291	1,134	2,403	2,600
目標設定の考え方：情報ITフェアにおける来場者数により、広く地域への普及効果を検証する						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 情報ITフェアへの参加団体数					単位： 団体
		13	16	2	3	14
目標設定の考え方：生徒と協働したブース運営など、生徒の育成に積極的な参加団体の増加により本事業の普及効果を検証する。						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 島根県や安来市のオープンデータを活用した授業の公開時間数					単位： 時間
		0	3	4	4	6
目標設定の考え方：地域への興味関心を高める授業を公開することにより、本事業の普及効果を検証する。						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 島根県、安来市の課題解決をテーマにしたシステム開発の件数					単位： 件
		2	3	3	3	6
目標設定の考え方：デジタルテクノロジー活用能力を発揮した地域課題解決システムにより、本事業の効果を検証する						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) WEB会議システムを活用した合同授業の実施回数					単位： 回
		1	2	1	1	4
目標設定の考え方：姉妹校とのWEB会議システムを活用した合同授業の実施により、本事業の効果を検証する。						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) WEB会議システムを活用した外部講師の講義実施回数					単位： 回
		0	0	3	7	5
目標設定の考え方：外部講師によるWEB会議システムを活用した講義の実施により、本事業の効果を検証する。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値(令和3年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	小学校教員に対するプログラミング講座の開催					単位： 回
		1	1	1	0	2
目標設定の考え方：過去の講座開催状況と比較して、本事業による効果を検証する						
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	本校生徒へのIT企業説明会等、地域との協働によるキャリア学習の実施状況					単位： 回
		2	2	2	4	2
目標設定の考え方：過去のキャリア学習の活動実績と比較して、本事業による効果を検証する						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
b	安来市主催のオープンデータワークショップにて市の情報をオープンデータ化し発信した件数					単位： 件
	5	5	0	0	0	20
目標設定の考え方：過去のオープンデータワークショップでの活動実績と比較して、本事業による効果を検証する						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
b	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会主催のアーバンデータチャレンジへの作品エントリー実績					単位： 回
	0	1	0	0	0	1
目標設定の考え方：市のオープンデータを活用した地域課題解決策を提案し、過去の実績と比較して本事業による効果を検証する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
b	安来商工会議所・安来市主催の「出張！遊ぼう学ぼう講座」への来場者数					単位： 人
	0	166	中止	中止		-
目標設定の考え方：過去の「出張！遊ぼう学ぼう講座」への来場者数と比較して、本事業による効果を検証する						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
b	安来市商工観光課・産業サポートネットやすぎ主催のIT体験授業における活動実績					単位： 回
	0	1	1	中止		-
目標設定の考え方：過去のIT体験授業の活動実績と比較して、本事業による効果を検証する						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
b	民間企業・団体・教育団体より依頼のあったwebページ作成、デザイン、動画編集、商品開発等の作品提案件数					単位： 件
	0	3	4	11	18	5
目標設定の考え方：過去の作品提案件数の実績と比較して、本事業による効果を検証する						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
b	民間企業・団体・教育団体より依頼のあった商品開発件数					単位： 件
	0	2	2	2	2	-
目標設定の考え方：過去の商品開発件数の実績と比較して、本事業による効果を検証する						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
b	公民館活動やイベントなど地域から本校へのボランティア依頼件数					単位： 件
	12	12	0	4	2	14
目標設定の考え方：過去のボランティア依頼件数の実績と比較して、本事業による効果を検証する						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全校生徒数（人）	305	300	273	276	278
本事業対象生徒数			273	276	278
本事業対象外生徒数			0	0	0